

しょう ちよう
葛 蒲 町

国史跡「菖蒲池古墳」

地方自治法の規定に基づき和田・石川・五条野町の一部を分割して、平成四年一月二四日に新発足したのが菖蒲町です。

隣接する明日香村の甘檜丘（あまかしのおか）から、西に向かって広がる低い丘陵地上に位置する新町域は、昭和四〇年代から宅地造成の波に乗って急速な開発が進み、檀原東口大和・日生五条野・檀原東口の三団地によりニュータウンが形成されました。

団地形成に伴い檀原市に移り住んできた人たちが早くから三五〇〇人・一三〇〇戸を超え、この新しい町の形成や新しい市民の要望を勘案して新しい「菖蒲町」が生み出されました。

町南端の東丘陵上に国が史跡に指定した「菖蒲池古墳」があります。古墳造りが終わりを迎えたころの終末期古墳で、規模や形が分からないものの立派な石室に豪華な石棺二基が納まっており、当時の皇族など「相当高貴な人の墓だろう」と見られています。

古墳のある一帯には、いま「菖蒲」も「池」も見当たりません。ただ、古墳が小さな谷に挟まれて位置することから古代には、菖蒲が群落する湿地のあったことも考えられるようです。

いずれにせよ古い古墳の名が、新しい町の名となったわけです。